

# 有明海再生赤潮モニタリング委託事業

有明海佐賀県海域における植物プランクトンの出現状況等のモニタリング

岩永卓也・山田秀樹・中原啓太・藤武史行

有明海におけるノリ色落ち原因種の発生シナリオの構築および赤潮発生予察技術開発の検討に資するため、有明海佐賀県海域における植物プランクトンの出現状況等の調査を実施した。なお、本課題の詳細については、「令和7年度赤潮等による漁業被害への対策技術の開発・実証・高度化報告書」で報告した。

## 方法

図1に示すP1, P6, T2, T3 および T13 の計5定点において、2025年10月から2026年2月まで月2回の頻度で調査を実施した。調査項目は、表層における植物プランクトンの細胞密度および栄養塩濃度 (DIN) とした。

## 結果

植物プランクトンの細胞密度の推移を図2に示した。植物プランクトンは、0~6,010 cells/mLの範囲で推移した。

調査期間中に発生した赤潮の発生は3件であった (表1)。赤潮の優占種はそれぞれ *Skeletonema* spp. が 2件, *Chaetoceros* spp. が1件, *Mesodinium rubrum* で1件であった。

DINの推移を図3に示した。DINは、全期間で0.0~10.28  $\mu\text{g-at/L}$ の範囲で推移し、10月29日のSt. T2およびSt. T3と1月9日のSt. P6, St. T3およびSt. T13を除き、ノリの色調維持に必要とされる7  $\mu\text{g-at/L}$ 以下であった。

表1 赤潮発生状況

発生期間	赤潮構成優占プランクトン
2025/11/26 ~ 2025/12/2	<i>Mesodinium rubrum</i>
2026/1/5 ~ 2026/1/26	<i>Skeletonema</i> spp.
2026/1/30 ~ 2026/3/3	<i>Skeletonema</i> spp. <i>Chaetoceros</i> spp.

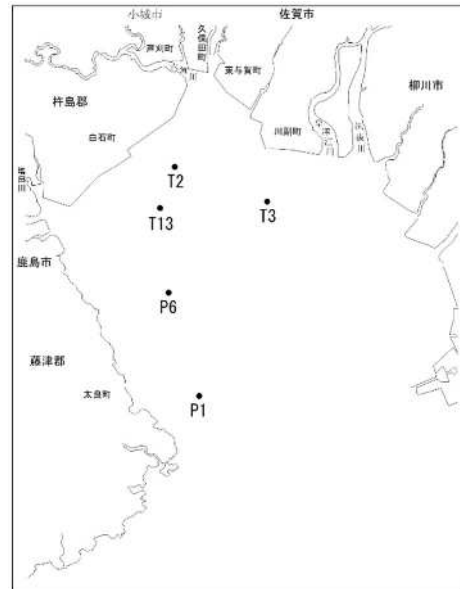


図1 観測地点

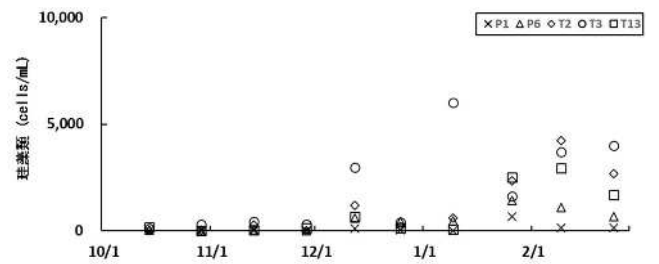


図2 植物プランクトンの細胞密度の推移

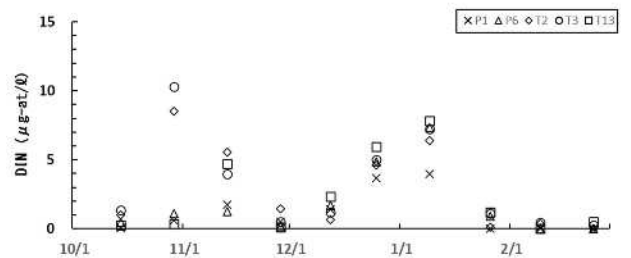


図3 表層におけるDINの推移